



2026年4月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は最高気温が 30 度以下になり、南部では雨も降り始めました。今年の夏は 1 月に発生した大規模な森林火災もあり、昨年同様に猛暑の夏でした。チリは石油の国内消費量の 96% を輸入に頼っています。

3 月 11 日就任した新大統領カスト（右派）は、燃料価格上昇に伴う影響緩和措置を実施し、政府が補助金などで国内経済や国民生活への影響軽減を図ります。

チリ銅価格は過去最高の 6 ドルを超えた後、5.45 ドル台まで下落しています。

銅価格の下落と共に為替市場はドルに対して 850 ペソ台から 920 ペソ台にペソ安ドル高傾向になっています。

チリの 2025 年経済成長率は 2.5% で南米では 4 位でした。アルゼンチンのミレイ大統領が米国のトランプ政権とは良好な関係でトランプ関税も低く、経済成長率が 4.4% で南米では 1 位になりました。チリのカスト大統領もトランプ政権とは良好な関係になるので、今年の経済成長率は昨年より高い 3.0% を予測しています。

2. 世界市況

中近東紛争が今後の世界市況に大きな影響を与えそうです。アラウコと CMPC の中近東向け共同バルク船（1 番船）が 3 月中旬にチリを出港しました。約 40 日の航海で中近東へ到着します。ホルムズ海峡が封鎖状態であれば、オマーンに寄港して陸送でサウジアラビア、UAE、カタール諸国へ運ぶ予定です。既に停戦後の戦後復興を見込んだ製材の買い意欲が強く、追加数量も含めて満船での成約になりました。

ロシアから中国への丸太輸出が減少傾向にあり、中国の NZ 丸太への買い意欲が強くなってきました。しかし NZ は森林伐採を減少している市況で、また NZ は石油備蓄が約 60 日しかなく、バルク船のバンカーオイルが 3 月末で既に 2 倍になっています。

NZ 製材は 10% 近い値上がりを始めており、韓国からチリへの製材の買い意欲も再び強くなってきて、4 月配船は価格が 5% 近く値上がりをしています。

ベトナムは石油備蓄が 15 日しかなく、今後の製材、L V L，合板の生産数量が減り、製材コスト上昇に伴い価格の値上げになりそうです。

中近東紛争が終結した後は、梱包、土木用下級材が自国材にない中近東や韓国がチリへ買い意欲を増すことも予想されます。

3. 日本市場

a) 配船スケジュール

3 月配船（1 番船）のコンテナ配船は予定通り 3 月中旬から 3 週間の配船を開始しました。5 月連休明け以降に各港へ入港する予定です。チリから日本へのコンテナ直行配船はなく、中国上海や韓国釜山で乗り換えをしますので、バルク配船より日本到着の時間が長くなります。

5 月配船（2 番船）はコンテナ配船からバルク配船へ戻す計画でしたが、中近東紛争によるホルムズ海峡封鎖に伴うバンカーオイルの高騰、為替の円安ドル高傾向により、今回もコンテナ配船の方がコスト削減になることからコンテナ配船に変更をしました。今回船は現地でコンテナの短期、中期契約残が多少あり、日本向け製材価格は据え置きになりました。現地を 5 月中旬から出港して、日本へは 7 月下旬から 8 月お盆前までに入港する予定です。7 月配船（3 番船）以降は今後の船運賃、梱包市況、為替を見ながらバルク配船に戻せるか、コンテナ配船を継続するか判断していくことになります。

b) 梱包市況

今年 1-2 月の梱包市況は昨年 12 月と比較すると販売数量が 10-20%減少しました。

3 月になり年度末の需要は限定的でしたが、1-2 月よりは販売数量は回復をしました。米国とイスラエルのイラン紛争は、ホルムズ海峡封鎖という最悪のシナリオになり、世界中で原油不足による石油ショックが起き始めています。

日本は原油備蓄がアジア最大 8 ヶ月はありますが、原油の 95%が中近東からの輸入に頼っており、中近東紛争が長期化すると経済、国民生活に大きな影響を与えます。

特に燃料コストの大幅な上昇はトラック運賃、HT 熱処理窯などのコスト上昇になり、今後も円安ドル高が進行すると、チリ材の輸入コストは大幅に上昇します。

中近東紛争が終結しても、原油高は続くことが予想されており、5 月以降に製材価格の値上げを検討することになりそうです。

今後は原油高に伴う輸送コスト、生産コストの上昇により、5 月以降は国産材、輸入材共に製材価格が上昇する可能性が高くなりました。

チリも輸送コストが大幅に上がることは避けられず、次回 7 月配船（3 番船）の製材価格は値上げをしなければなりません。中近東紛争による原油価格の動向、為替水準、輸出梱包の需要、4-5 月の国内販売数量により、製材の値上げ幅を検討していくことになりそうです。

以 上